

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290300070		
法人名	医療法人 済家会		
事業所名	グループホーム長庚堂Ⅱ		
所在地	長崎県島原市弁天町一丁目7063番地		
自己評価作成日	令和 4年 6月 22日	評価結果市町村受理日	令和4年10月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

商店街、公園の近くに立地しており、近隣には、母体法人の医療施設がある為、他職種との連携強化に繋がっている。また隣接の事業所と合同誕生会やイベントを行っており、日々交流を図っている。家族的な雰囲気の中で利用者一人一人の思いに添った支援を心掛けている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和4年9月24日

ホームは島原市の中心部に位置し、近隣にはアーケードや大型ショッピングセンター、公園があり、入居者が散歩をしたり、個別に買い物したり、隣家に回覧板をまわす際には地域住民と挨拶を交わすなど、日常的に交流している。母体医療機関が近隣にあり、入居者に対する日々の体調管理、緊急時における医療的ケア態勢の提供など、24時間に渡って医療と連携しており、入居者や家族の安心感に繋がっている。市内で開催される防災訓練には入居者と職員と一緒に参加するなど、地域の一員として暮らせるよう取り組んでいる。理念である「地域とのふれあいを大切に、その人らしく、ゆつくり暮らせるように」を掲げ、理念をいつでも確認できる職員の名札の裏面に理念を印刷し、周知徹底されている。入居者と職員が共に笑顔で過ごせるよう、また、入居者一人ひとりの意向に沿えるよう、会話やコミュニケーションを大切に支援しているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 長庚堂Ⅱ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所の玄関、事務所に掲示してあり毎日の申し送り時に唱和し共有に繋げ継続している。	ホームでは毎朝の申し送り時に理念を唱和している。管理者と職員は理念を踏まえ、入居者が住み慣れた地域の中で自分らしく暮らせるよう実践に努めている。理念をいつでも確認できるよう職員の名札の裏面に理念を印刷し周知を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍での生活で出来る範囲での、町内会での市民清掃参加や霊丘地区防災訓練に参加を行った	ホームは町内会に入会しており、入居者と職員と一緒に隣家に回覧板を持って行ったり、町内清掃に入居者と職員と一緒に参加するなど、日常的に地域住民と交流している。今年度、市内で開催される防災訓練に入居者と職員が参加するなど地域の一員として暮らせるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	zoom研修会に参加し、意識付けを行っている。また相談があればその都度対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染拡大の予防措置にて開催出来ず、書面会議での対応が多くなっており、意見が思うようになかった	コロナ禍のため、運営推進会議は書面会議にて開催し、各委員より「同意確認書」を頂いている。開催案内は地域包括支援センター職員、地域住民代表(町内会長、民生児童委員)、居宅介護支援事業所職員、入居者家族代表に送付し、ホーム職員も参加して入居者の状態や支援の内容・取り組みについて意見を求め、ホームの運営やケアの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話や連絡協議会を通じての相談や協力が得られている。	管理者は、介護保険請求や入居者対応等、市の窓口に出向き、また、必要に応じて電話やEメールを活用しながら相談したりホームの現状を伝えている。運営や入居者への対応など、市担当者へ積極的に伝えることで日頃より協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は研修に参加し身体拘束について意識を高めている。	ホームでは身体拘束をしないケアを目標に掲げ、「身体拘束廃止に関する指針」を策定して全職員に周知している。身体拘束委員会には必要に応じて主治医や理学療法士も参加し、意見や助言等を得ながら適切なケアの方法などについて協議している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会場での研修会や、zoom研修会に参加し意識付けを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会、または母体法人の勉強会に参加し学び、支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に施設見学、説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話にて聴き取りを行っている。玄関先に意見箱を設置しているが投函されたことはない。	管理者や職員は家族から面会時や電話により日頃から意見や要望を聴き取るよう努めている。職員は日々の支援を通じて入居者の意見や要望を聴き取っている。現在のところオンライン面会は設備がないため実施していない。玄関には意見箱を設置し、家族にも伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者で、対応困難な意見提案に対しては母体法人の代表者と話し合い、反映に努めている。	管理者は職員からの意見や提案を聴き、必要に応じて法人の事務長へ挙げ、職員意見の反映に努めている。入居者への対応、物品の設置場所、オムツ・パッドの使用方法など、職員から具体的な提案を検討し、設備の整備や購入等具体的に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を少なからず把握されており環境づくりに努力されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍である為、資料配布、zoomにて研修に参加出来る機会を設けている、		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍である為zoomにて交流する機会を設けている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の会話、行動で要望を把握し、安心、信頼関係に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コロナ禍にて面会が出来ない期間があったが計画作成時に電話にて会話する機会を作り、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様の意見、要望、思いを会話で知るように努め、心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や出来る事などスタッフと一緒にいき家庭的な雰囲気づくりを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話、手紙にて支援に心掛けている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会禁止にて、以前のような交流が築けていない状況ではあるが、面会の緩和にて徐々に出来るように支援していきたい。	コロナ禍により入居者との面会を禁止している。コロナ禍前は、家族との外泊、冠婚葬祭や家族の法事への参加、友人がホームに来所して一緒に食事をするなど、入居者が大切にしてきた関係が途切れないように支援していた。現在は感染対策を講じながら梅や桜などドライブで季節の花を眺めに出たり、ホームの近隣を散歩するなど取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話が合うような方同士をスタッフが話を組み立て、楽しく話をして頂く。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、面会に行ったり、ご家族様が来所され、近況報告と相談にも来られるケースもあり、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段からその方々の事を観察しホーム内で出来る事を選択肢を提供、その方の意向、希望に沿った環境を作っていく。	職員は入居者一人ひとりから思いや暮らし方の意向を聴き、本人本位の暮らしが継続できるよう、職員、管理者、計画作成担当者がチームとしてケアの方法を検討している。意向を伝えることが困難な入居者には家族へ希望や意向を聴き取り、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族からのアセスメント等の聞き取りにて、職員間で共有出来ている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録、申し送りにて共有把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議やモニタリングを実施し反映させる。	入居者の意向や思いを介護計画に取り入れ、毎月のモニタリングや評価を通じて、職員全員で共有し支援している。日々の支援の中で気づいた課題について、本人、家族と話し合い、職員の意見や提案を踏まえた上で、入居者がより良く暮らせるための介護計画の立案に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に、短期目標のケア内容の評価を日々記録する事で職員間の共有につながる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体法人の他職種からアドバイスや協力支援を受けながら取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の方と一緒に市民清掃に参加したり祭りなどの行事にも参加出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望にて受診できており、また母体法人からは訪問診療も希望により受けることが出来ている。	医療機関への受診には本人及び家族の希望を大切にしており、ホーム職員による送迎や付き添いにより、適切な医療を受ける事が可能である。また、病院受診の結果を担当した職員が家族に電話等で連絡しており、家族の安心感に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の医療連携と24時間体制にて母体法人の看護師と常に相談支援が受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	本人、家族、主治医と相談し連携を図り早期退院へ向ける努力をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	計画作成時に、本人、家族の意向を確認し支援している。	ホームでは看取り指針を整備し、入居時に説明している。尚、ホームで看取り支援は行っていない。入居者が重度化した場合は母体医療法人と連携し、適切な医療的ケアを受けながら過ごせるよう取り組んでいる。主治医から終末期であるとの診断があった場合には家族に説明し、家族の同意を得て円滑に医療機関へ移行できるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会、研修会に参加しており消防署や母体での救急蘇生法、AED操作なども学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	マニュアルを作成しており施設内での訓練及び母体法人内の訓練にも参加している。コロナ感染予防措置にて、消防署の立ち合いもできず、地元消防団の協力参加を前年度は得られなかったが今年度は参加実施を行うようにする。	ホームでは、消防計画、火災、台風、地震等に関するマニュアルを作成し、職員は母体法人や隣接する同法人のグループホームとの合同訓練に参加している。コロナ禍により消防署や消防団の立ち合いによる訓練はできていないが、管理者は自主訓練を継続しながら、今後も地域や消防署との連携を働きかける意向である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	運営理念に基づき、保護に努めている。	入居者が居室で一人で過ごしたい場合や、リビングで入居者同士が会話をして過ごしたい場合など、その方の思いや意向を尊重した支援に努めている。トイレ誘導時の声掛け時は自尊心に配慮し、他の入居者に気づかれないよう本人の耳元で声を掛け誘導し、排泄介助を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉で疎通困難な利用者様には、筆談やジェスチャーを用いて、または表情を察知して努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	勤務状況では直ぐに対応、希望に添えない事もあるが、出来るだけ意に沿えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服や、散髪等は出来るだけ本人の希望を優先して支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	宅配業者の食事となっている為に定期的に業者担当者が来所され相談を行ったり、外食等で子のみの食事を取って頂く工夫は行っている。	ホームでは配食業者によるチルド食の配達を依頼している。食事は入居者一人ひとりの食事形態に合わせて、1口大、きざみ、極きざみ、ミキサー、おかゆなどにして支援している。入居者の希望があれば出前を取ったり、買ってきたり、本人が食べたい物を食べる事ができるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	宅配業者の栄養士にてバランスの取れた食事を摂れている。気候や体調に合わせて水分補給を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けにて毎食後歯磨きをされている。出来ない方には、介助にて支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を把握しトイレ誘導を行っている。	ホームではタブレットを使用し、入居者の排泄情報を入力して職員全員が入居者一人ひとりの排泄パターン表を把握し、管理している。職員がその方のタイミングに応じて耳元で声掛けをし、トイレへの声掛けや誘導、見守りや介助を行い、快適に過ごせるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を把握し、腸活に良い飲食物を摂り、適度な水分補給や適度な運動を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが状況に応じて対応を行っている。*必ずゆず風呂等で季節感を味わう支援を行っている。	週2回の入浴を基本としているが、入居者の希望があれば、個々の状態や希望のタイミングに沿っていつでも入浴できるよう支援している。また、季節に応じてゆず湯を行うなど入浴が楽しめるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の個々に合わせるようにしている。不穏状態や不眠状態の方には個々に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で情報を共有し、マニュアルに添っての服薬管理にて支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のレクリエーションを予定し気分転換を図っている。家事等に参加し張り合いにも繋がっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為外出が困難な状態の中で、個別対応にて、ドライブや買い物の時間を作っている	入居者の「買い物に行きたい」、「山を観たい」との要望に応じ、買い物や山を眺めにドライブへ行き、車から降りて外気浴するなど、コロナ禍でも可能な範囲で支援している。また、ホーム周辺を散歩して地域住民と触れ合う事も日々取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの利用者様は管理できない状態。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人家族の方希望での電話や手紙など継続出来ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓があり施設全体が明るい。居室入口には季節毎に飾りつけと写真を入れ飾っている。	共用スペースには天窓があり、明るい空間となっている。リビングの窓から外を眺めると、大型ショッピングセンターや街並みを眺めることができる。リビングには季節の花(紫陽花)のぬり絵を飾り付けたり、玄関には干支のタペストリーを飾るなど、入居者が季節を感じながら過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂件リビングは利用者様の憩いの場となっている。また居室は個室にてプライバシーが守れている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族様の希望で自宅から馴染んだ家具や仏壇など持ち込みにて工夫をしている。	入居者が居室で安心して過ごせるよう入居者一人ひとりに合わせて家具やベッドの配置を検討し、ベッドの高さの調整や介護の動線に配慮している。居室には使い慣れたテレビやテーブル、椅子、大切な家族の写真などが持ち込まれており、入居者が落ち着いて暮らせる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーにて廊下は手すりを設置し隣接の事業所とはロフトで繋いでおり交流が常に出来ている。		